さんけん新聞

発　行
NPO法人
三段峡―太田川
流域研究会
（代表・本宮炎）

〒731－3813
広島県山県郡
安芸太田町
柴木1734
090-3421-3046
◇
https://sanken-hiroshima.org/

企業・団体との連携進む

無印良品・安芸太田町／EPOちゅうごく・広島大学
新年度二事業で意見交換

新年度の事業展開に向け、無印良品広島ブロックとの勉強会を一月十四日、東京海上日動のGreen Giftプログラムを作成するEPOちゅうごく・広島大学とのワークショップを十八日に相次いで開き、意見交換した。

三段峡ホテルで開かれた無印良品との勉強会

「町全体へ貢献する」

無印良品との勉強会には同社から四人、さんけんから五人、町地域づくり課長が参加し、新年度の取り組みを話し合った。

本宮炎理事長は団体の理念と活動を説明し、小林久哉副理事長はツアーの目指す姿を発表した。無印良品広島パルコ店の山口恵介店長は、井仁の棚田での活動や空き家再生の取り組みを振り返り、イベントなどで安芸太田町を訪れた人が定住するまでのステップを分解して提案した。

発表を受け、無印良品を使ったキャンプ、町内中高生のインターン受け入れなどのアイデアが出された。山口店長は「今年は、町全体へ貢献する」と抱負を語った。

初回テーマ両生類

次世代への環境教育プログラムの設計を検討するワークショップには、さんけんとEPO職員、広島大学生ら計九人が参加した。

互いの自然体験を出し合い、環境教育の課題を「世代間で、自然との関わり方や技術が途絶えつつある」と設定した。子供たち同士が学び合う内容を議論し、初回のプログラム実施を六月に決めた。両生類をテーマに捕獲や観察、コミュニケーション能力やサバイバル技術を学ぶ。

Green Giftプログラムの助成を受ける三年間でノウハウを蓄積し、持続して自主運営できる自然塾の立ち上げを目指す。

エコツーリズム推進法／「地域循環共生圏」
地域の資源活用・連携学ぶ

環境省が提唱する「地域循環共生圏」を学ぶ会が一月三十日、江田島市や三原市からの参加者を含め二十一人が参加して、広島市佐伯区の湯来交流体験センターで開かれた。さんけんと湯来地域づくり公社の共催。

講師は同省中四国事務局広島事務所の職員。約一時間の講義の後、グループに分かれて両制度の活用方法を議論し、理解を深めた。

受講した小林久哉副理事長は「ノウハウや情報を共有し、互いの得意分野を活用しながら、地域が連携していくきっかけにしたい」と期待を込めた。

「あきおおたの楽しい100人」
発表の様子 動画発信

地域で活躍している人をリレー方式でつなぎ、取り組みを発表する「あきおおたの楽しい100人」の集まりが、隔月で開かれている。さんけんのホームページとユーチューブで見られる。

八回目の一月二十六日には、山本逸美さん（津浪・足マッサージ）、清水正弘さん（筒賀・トラベルセラピスト）、中川圭子さん（筒賀出身・安芸太田国際音楽祭発起人）が登壇した。十五分の持ち時間で活動内容や安芸太田への思いを語り、質問タイムや来場者が自己紹介する知り合いタイムもある。

司会を担当するさんけん会員の小野誉里子さんは「点で活躍されるだけでなく線でつながれば」と願う。登壇者は男十人、女七人、来場者は延べ二百十六人。

風力発電の説明会
生態系などへ懸念

広島と島根の県境近くに計画されている益田匹見風力発電事業（仮称・アジア風力発電株式会社）の環境影響評価方法書の説明会が一月二十四日、いこいの村ひろしまで開かれた。さんけんから本宮炎理事長ら五人が参加し、事業者と意見交換した。

計画は最大十五基、六万Kw。西中国山地には他にも同規模の計画があり、周辺住民への健康や生態系への影響が懸念されている。

一口メモ

▼冬の使者

国道191号を左折し、三段峡正面口へ向かうと左に柴木ダムがある。マガモやホシハジロ、カワアイサなどのカモ類やオシドリが羽を休めている。峡内には鴛鴦（おしどり）淵の名もあり縁が深い。「東アジアの至宝」「世界一美しいカモ」とも言われる。双眼鏡を手に冬が楽しめる。

南峰と歩く ㉚ 長瀞（ながとろ）
流変のため 名実相伴わざる感

大淵から四〇〇㍍ほど上流、川が右へ大きく曲がろうとする辺りが長瀞である。河床を通るしかなかった開峡当時は著名な場所だった。後にかなり高い位置へ探勝路が伐り拓かれたため流れから離れ、景趣を味わえなくなった。今は失われた景勝名である。

■瀞とは呼べない瀬

国指定の名勝渓谷として知られる埼玉県の「長瀞」や和歌山県の「瀞八丁」を見れば分るように、長瀞とは「長く緩やかな流れの場所」の意である。が、ここは石の間を奔流が音を立てて瀬をなし、瀞（とろ）と呼ぶにはほど遠い。

一九二九年に広島県が発行した「史蹟名勝天然紀念物調査報告第一輯」には、長瀞について「かつて静流長かりしも、今や流変のため却って奔瀬をなし、名実相伴わざる感」と記されている。

下流の大淵は「かつて峡中の最大淵たり。故に名あり。現時流変により百坪に過ぎず」とある。黒淵より大きいとは現状とあまりに違う。

■両岸見る好展望地

熊南峰は長瀞の名前の由来には言及していない。「左岸の風致と、右岸の山腹に屹立する立岩、猿岩、大岳の奇態が見ものである」と記している。長瀞は、河床の風景を賞したのではなく、両岸を見晴らせる好展望地として設定された景勝なのだろう。

（松尾　俊孝）

この人
多彩な顔 古里大好き
大倉　啓司さん

加計印刷４代目社長、安芸太田町商工会副会長、しわいマラソン広報部長など多彩な顔を持つ。生来の明るいキャラクターで「勝手に観光大使」を名乗る。強面の表情でポスターにも登場、存在は町民に知れ渡る。イベントや「あきおおたの楽しい１００人」などの会合にも積極的に顔を出し、ＳＮＳやネット動画で古里の魅力を発信している。

さとやまガイドの１期生。三段峡の激しかったり、優しかったりする変化に富んだ水の景色に惹かれる。「住んでいる人、訪れる人、通り過ぎる人でも癒される町にしたい」。（炎）